

事業実績書

事業名	杉原千畝夫妻顕彰活動	
場所	沼津市港口公園、プラサベルデ	
期間	令和4年4月10日 ~ 令和5年3月31日	
	日程	実施項目・作業項目
事業 内 容		※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。 イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など)
	4月	令和4年度の顕彰活動スケジュールの確認 長興寺にて 10月30日 第2回碑前祭開催 港口公園 11月20日 第3回「命のビザ講演会」の確認 案内チラシへの協賛広告の依頼
	6月	案内チラシの作成(9,000部) 沼津市関係者、イスラエル、リトアニア、ポーランド各駐日大使館への招待状
	9月	案内チラシの配布
	10月	10月30日の碑前祭の準備会、スケジュール確認、役割分担 長興寺にて 市内外の関係者に案内葉書(碑前祭+講演会)の発送 ⇒ 参加人数の集計 通訳の暁秀高校生のリハーサル 10月29日 献茶式リハーサル、イスラエル大使警護関係者との打ち合わせ 10月30日(日)午前11時より 第2回碑前祭「命のビザ・希望の集い」実施 開催場所 港口公園 無償スタッフ60名(受付、駐車場係など、加藤学園インターアクト部含む) 来場者 約200名(沼津市、近郊、県外より)
	11月	第2回碑前祭の反省、第3回「命のビザ講演会」の準備打ち合わせ 長興寺にて 参加申込者の集計 11月20日(日)13時 第3回「命のビザ講演会」の開催 会場 プラサベルデ3階 大会議室 講師 山田純大(俳優) 演題 「命のビザを繋いだ男~小辻節三~」 無償スタッフ 20名 参加者 160名 同時開催パネル展「空のない星~ホロコーストの子ども達」、市民ギャラリー
	12月	市内の高校4校(暁秀高、桐陽高校、沼津東高、沼津市立高)で巡回展示
	3月	反省会 事業報告書、収支決算書など作成、提出

事業効果	<p>※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を、具体的な数値を用いて記載してください。</p> <p>I 第2回碑前祭「命のビザ・希望の光」</p> <p>1 杉原千畝を支えた幸子夫人が沼津生まれであることは、広報ぬまづやマスコミ報道によって市民に知られるようになったが、まだまだ浸透していないという現実もあり、今後も継続して発信する必要があると思う。</p> <p>2 関心のある人々は増えたが固定化している傾向がある。広範な市民の皆さんに杉原夫妻の偉業を知ってもらい人道の精神を学んでもらう機会を工夫していかなければならないと思う。</p> <p>3 中学校2年の道徳の教科書には杉原千畝の偉業について記述があるが、顕彰会の行事や顕彰碑の存在について知る小中学生は少ないというのが現状である。中学校に出向いて出前授業をするのも一案でないかと考える。</p> <p>4 高校生については、暁秀高校バイリガルコースの生徒に加え加藤学園のインターアクト部の生徒がウクライナへの人道支援の募金活動をかねて参加してくれた。またイスラエル大使館と共催したパネル展「空のない星～ホロコーストの子ども達～」が各高校の協力を得て、暁秀高校、桐陽高校、沼津東高校、沼津市立高校で巡回展示を実施して生徒達に見てもらったことは大きな成果だと思う。今後とも次代を担う世代に参加を呼びかけたい。</p> <p>5 今回は、イスラエル大使が国交樹立70周年の年でもあるので出席、情熱的なスピーチをされ、来場者に感動を与えた。リトアニア大使、ポーランドの外交官は流暢な日本語でスピーチされて来場者は熱心に聞き入っていた。沼津の国際化の一助にもなれば幸いに思う。コロナ流行後、他の千畝ゆかりの地と連携して千畝ルートを企画して国内はもちろん国外客を誘導するプロジェクトも課題となる。</p> <p>6 前回より、碑前に献花や献茶をするようにしたが、碑前祭はいっそう厳粛な式典となり、出席した外交官から称賛の言葉をいただいた。式後の、バイオリンとキーボードによる奉納演奏はウクライナ支援を踏まえた「シンドラーのリスト」などの選曲が好評だった。</p> <p>7 昨年2月に始まったロシア軍のウクライナ侵攻の続行という情勢を受けてポーランドでウクライナへの人道支援に献身している日本人、坂本龍太郎さんを応援する募金活動を碑前祭、講演会、パネル展で高校のインターアクト部の協力を得て実施して成果を上げた。</p> <p>II 第3回命のビザ講演会</p> <p>1 俳優の山田純大さんのパワーポイントを活用した分かり易い講演に一同聞き入り、「命のビザ」により日本に到着したユダヤ難民たちを献身的に援助して、横浜港からの出国に献身した小辻節三について知る事ができた。</p> <p>2 これにより、「命のビザ」の空白になっている流れについてシベリア鉄道の経路を余すのみとなった。来年度、毎日新聞元モスクワ支局長、石郷岡健を講師に迎えて「杉原千畝とスターリン」と題する講演をもって明らかになる。</p> <p>3 講演会にユダヤ難民が日本上陸した福井県敦賀市の記念館のスタッフ、幸子夫人の母校高松高校の教師も来場し交流の輪が広がった。</p>
自己評価	<p>※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。</p> <p>1 年一回の碑前祭と命のビザの認識が深まり定着したように思う</p> <p>2 イスラエル大使の出席によりグレードアップした感がある。</p> <p>3 20名ほどの高校生の参加により今後への期待感が持てた。</p> <p>4 幸子夫人の母校、香川県立高松高校の先生が碑前祭、講演会に遠路参加して下さり、令和5年の幸子夫人誕生110年を記念する高松高校と市内の高校との交流の糸口となった。</p>

今後の活動予定	<p>※ ファンドを利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。</p> <p>顕彰碑の除幕式から始まった顕彰活動は「まちづくりファンド」の支援により立ち上がり育って来た。支援は令和5年度が最終年度となるが、自主財源の確保に努力して顕彰活動の継続を工夫していきたい。これまでの顕彰活動を「点」とすれば、今後、杉原千畝夫妻の顕彰を縁とする交流の輪が広がり、「線」となり「面」となっていくことを予感している。もって沼津市の活性化、中高生の学びの一助となれば幸いに思う。</p>
---------	---